

発行所
大阪経済大学
同窓会
大樟会
東播磨支部
発行人
山本憲章

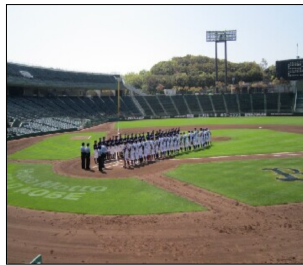
関西六大学野球観戦応援！！

昨年5月の
滋賀県大津
市皇子山球
場の応援ツ
アーに続け
て、平成26
年春季リー
グ第3節の、
ほとともつ
とフィール
ド神戸で行
われました
神戸学院大
学VS大阪経
済大学の試
合観戦に行
きました。
当日は好天
に恵まれ、
絶好の野球
日和でした。
試合は、残

東播磨支部活動！

平成26年4月19日(土)、関西六大学野球「神院大VS大経大」春季リーグを観戦。試合は、残念ながら、0対4で敗戦。

念ながら、0対4で負けましたが、東播磨支部の応援が功を奏したのか？翌日・翌々日と勝利し、勝ち点を獲得しました。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
神院	河達	松金	DH	岩敷	妹	杉	今	P	松	
大木	本城	森原	永名	島	宮田					
大經	9加下	藤木	DH	兼川	長福	中尾				
大賀	賀村	田村	田口	瀬原	野崎					

チアリーディングクラブの可愛らしい応援は華があり、野球部はその応援に比べられずに、敗戦しました。昭和30年代か

ら40年代は、応援団の応援を受けていた硬派な頃に比べると考えられない光景で、東播磨支部役員一同デレデレでした。



チアガールと応援団



東播磨支部役員一同

平成26年10月26日

(日) 大樟会東播磨支部の再建4回目の同窓会を開催します。

東播磨支部の会員の皆様は、お友達お誘い合わせのうえ、ふりっでの参加をお待ちしています。

場所
..

東京田村加古川店
(加古川プラザホテ

10 時間 名
.. 間 です。
00 ..
平

10
..
00 受付開始

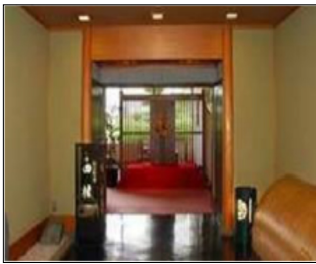
再建4回目支部同窓会開催

ル4階)

下の画像をご覧ください。

12	11	10
..	..	..
30	00	30
懇親会	講演	総会

東京田村入口付近



東播磨支部レポート

第2号は、「観光レポート」します

このコーナーは、東播磨支部の会員の方々に役に立つ耳よりな情報（グルメ・観光・買い物など）を特集していきます。

第2号は、東播磨支部副支部長の山脇（45回卒業）がレポートします。

生涯①「世間では、黒田官兵衛ブームに沸いているが、「生国播磨の武士」として忘れてならないのは、「宮本武蔵」である。通説によると天正10（1582）年、本能寺の変の年に、その直前に織田

方秀吉軍に敗れた田

歴史ウォークで官兵衛満喫！

平成26年5月19日

(日) 9時に加古川
ウエルネスパークに
集合して歴史ウォー
クを開催しました。
天候にも恵まれ、
「黒田官兵衛ゆかり
の地を訪ねて」をテ
マに志方町の円照寺、
城山散策を楽しみま
した。初参加の井上
さん(38回卒)と松

官兵衛ゆかりの地

圓照寺は浄土真宗本願寺（西本願寺）派の寺院で、寺号は月輪山圓照寺、本尊は立像阿弥陀如来。寺院の開基は喜吉元年（1441年）、弘治3年（1557年）を中興開基としています。



原家貞の次男として、
播磨国印南郡米墮村
(現高砂市米田町米
田)に生まれた。



(続きは裏面へ)

(続きは裏面へ)



境内の梵鐘は、秀吉が中国平定の戦いで山口県の上野八幡宮の鐘を陣鐘として使い、帰京の際にこの地に置いていったものといわれています。なお、この梵鐘は、銘を持つ鐘の中では、全国で362番目、兵庫県では24番目、加古川市内では一番古い鐘です。「周防国富田保 上野八幡宮 明応七年」の銘が刻まれており、市指定文化財となっています。



円照寺は花の寺
円照寺は「花の寺」として知られ、3月から11月にかけてクリスマスローズ、ユキヤナギ、椿、ライラック、アジサイ、ノウゼンカズラ、酔芙蓉などのさまざまに花が咲き乱れます。花の寺の円照寺を後に、城山散策に向かいました。



城山は桜の名所
城山は志方町の東の端に位置し、中世の城跡があります。室町時代に赤松一族築き、約170年間続いた東播磨で有数の城跡です。登山道は整備され、頂上からは北に七ツ池、東に権現ダム、西に高御位山、南は播磨灘まで見渡せる絶景です。また城山公園には約

200本の桜があり、春には花見が楽しめます。駐車場から山頂まで約30分で登れますが、午後から気温も上がり、汗だくになりながら登りました。頂上では、涼しげなそよ風の中で記念写真を撮りました。



天候を心配していましたが、皆さんの日頃の心掛けが良いため、晴天の中、歴史ウォークが開催できました。

(山脇(45回卒業)が担当しました)



「東播磨支部レポート」続き

この時官兵衛はすでに37歳である。少年期に美作の新免無二斎の養子になり、二刀流剣術を学んだ。

慶長5(1600)年、関ヶ原の戦いの時には、通説では西軍の宇喜多勢に所属し、秀家の指揮下で決戦に参加したとある(吉川英治書)が、九州で東軍方の黒田如水(官兵衛)の下で戦ったという説もある。その後、21歳で都にのぼり、諸国武者修行をして29歳までに60余度戦って一度も負けなかったのは、誰もが知るところである。

武蔵が42歳の時に実兄の次男・伊織を養子にとった。高砂生まれの伊織は、泊神社(加古川町木村)



の分社「米田天神社」を再建し、平安時代の三十六歌仙扇額(現存)を寄進した。

泊神社にも武蔵を高砂出身とした「棟札」(1653年)を伊織が建てている。

ちなみに昨年は宮本伊織生誕400年であった。



【米田天神社】

ここから順を追って、武蔵の生涯の決闘の数々を紹介しましょう。

まず初めての決闘は、慶長元(1596)年13歳の時、佐用川沿いの平福で子供と侮り戦う気のなかった新当流・有馬喜兵衛を有無を言わず撲殺した。16歳で但馬の国で秋山某



【宿場町平福】

を倒し、17歳で関ヶ原の戦場へ。4年後の慶長9(1604)年、21歳。京で高名を轟かせていた吉岡一門と対決。場所は五条橋のたもと「蓮台寺野」一面ススキの野である。清十郎が振り下ろした木刀をかわし、武蔵は相手の肩をめがけて木刀を叩きつけた。清十郎の肩は砕け、腕を切り落とさなければならぬほどの重症を負った。その後弟の伝七郎を倒し、一乗寺下り松で子供の又七郎を一刀のもとに斬りつけ混乱した門弟数十人に「二刀流」で立ち向かい吉岡一門を蹴散らした。武蔵21歳、生涯で最も悪戦苦闘を強いられた果し合であったと言われている。



【一乗寺下り松】

同年、大和国の宝蔵院槍術・奥蔵院と戦い勝利した後、武蔵は柳生街道を通り、柳生新陰流・石舟斎宗厳と手を合わせるため柳生の里に向かった。だがこの時石舟斎はすでに七十六歳の老人であったため、立ち会いをあきらめ伊賀上野を目指して歩いた。



【柳生の里】

上野城下に入った時、行き交う旅人を持ち受け身ぐるみを剥ぐという悪い噂を聞いた。(次号に続く)